

第8章 河道特性

8 - 1 河道状況

天竜川は、上流域で三峰川、小渋川、太田切川、中田切川などを合流して泰阜ダムに注ぎ、その後中流において、佐久間ダム、秋葉ダム、船明ダムなどの位置する山間狭窄部を流下し、下流域で気田川などの支川を合流し遠州灘に注ぐ。

縦断勾配は、1/1,185～1/160、川幅は、40～1,240mとなっている。

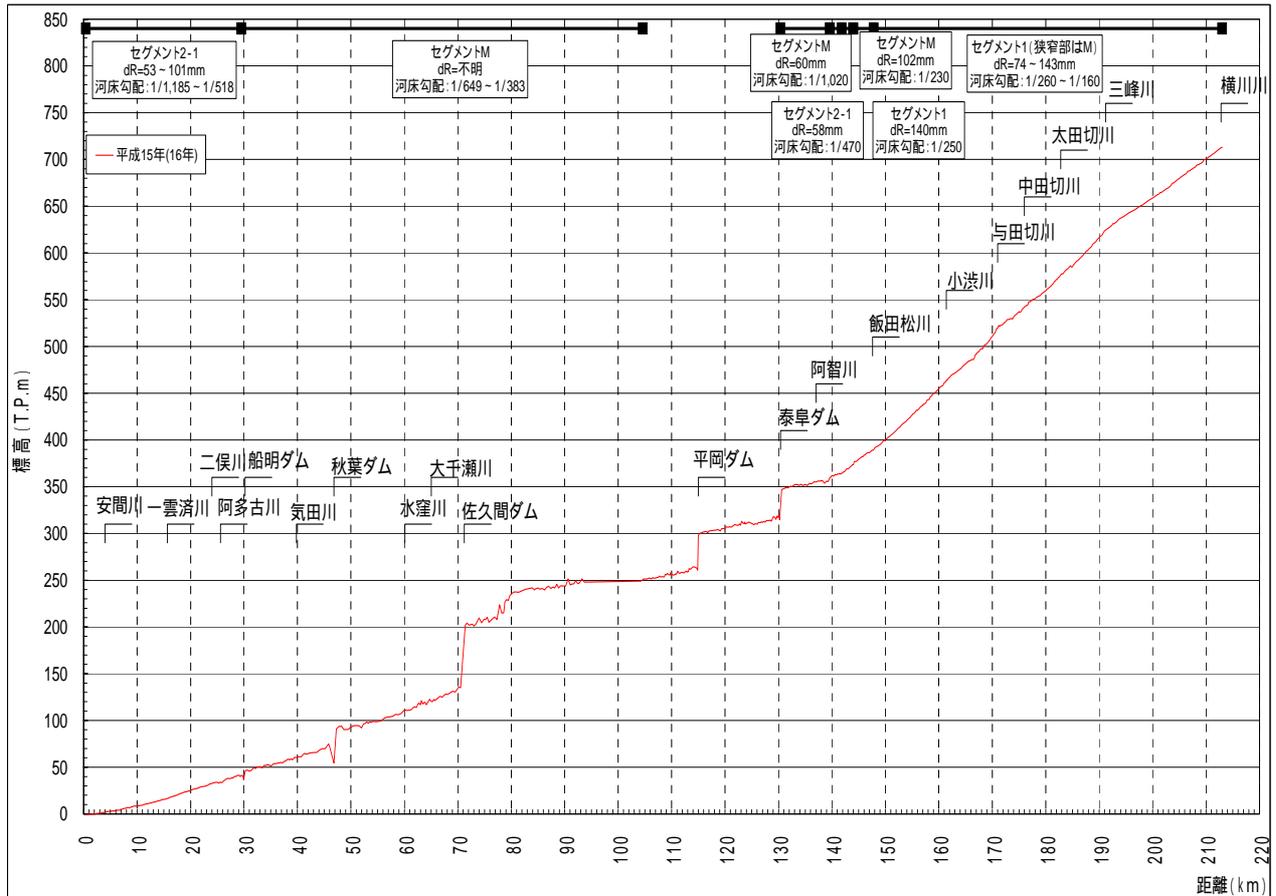


図 8 - 1 天竜川の河床勾配

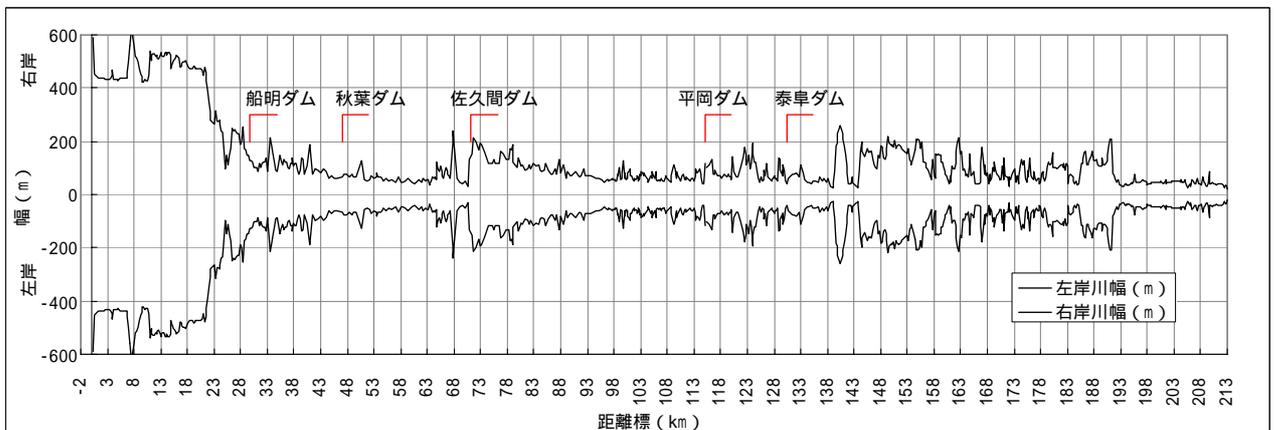


図 8 - 2 天竜川の堤間幅

(1) 上流域

長野県にある諏訪湖から発する天竜川は、三峰川、小渋川など多くの支川を合わせ、狭窄と拡幅を連続しながら流下し泰阜ダムに注ぐ。

河床勾配は 1/160 ~ 1/700 程度で、川幅は 40 ~ 500m 程度である。



天竜峡付近の状況



泰阜ダム付近の状況



三峰川合流点付近



小渋川合流点付近

(2) 中流域

泰阜ダムから船明ダムまでの区間は、大半が山間部となっており、セグメントはMで河床勾配は 1/380 ~ 1/650 程度、川幅は 60 ~ 300m 程度である。本区間は、昭和中期に建設された平岡ダム、佐久間ダムなどを始めとする複数のダムが設置されている区間である。



佐久間ダム付近の状況



山間部の状況

(3) 下流域

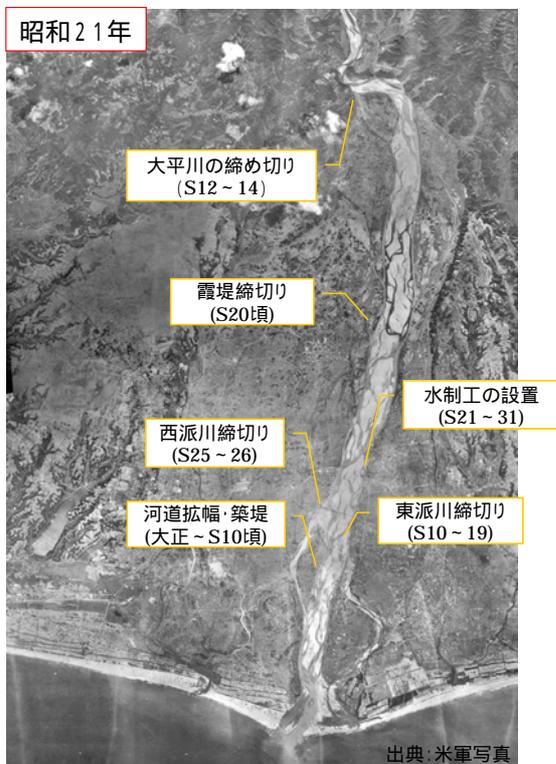
鹿島地区から河口までの区間は、扇頂部に位置する基準地点鹿島の直下流で大きく湾曲した後、ほぼ直線的に河口まで流下する。セグメントは2 - 1、河床勾配は1/560～1/1200程度で、川幅は190～1240m程度である。当該区間は明治18年以降実施された河道改修により、東海道線下流中央部の流路幅を900mとすると共に、東西両派川の締切り等が行われた。



鹿島地点付近の状況



東海道線下流部付近の状況



過去の改修状況



河口部の状況